



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |



かけはし

氷見

KAKEHASHI

患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



TOPICS ●トピックス

平成31年度 新規採用者入職式

まるまげ祭り(氷見市)

CONTENTS ●もくじ

TOPICS 平成31年度 新規採用者入職式	P.01
特集 平成31年度 新任医師紹介	P.03
病院★ニュース	P.04
病院からのお知らせ掲示板	P.06
まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



金沢医科大学氷見市民病院 平成31年度 新入職員入職式

平成31年4月1日(月)午後2時から新入職員入職式が氷見市民病院6階多目的ホールで行われた。今年度の入職者は医師1名、薬剤師1名、看護師10名、放射線技師2名、臨床工学技士1名、ソーシャルワーカー1名の計16名であった。

入職式は松本忠美最高経営責任者ならびに梅博久病院長をはじめ多数の病院幹部職員列席のもと行われた。新入職員を代表し、薬剤師の北川秀人さんに松本最高経営責任者から採用辞令が交付され、式辞が述べられた。続いて梅病院長から訓示がなされ、最後に初期臨床研修医の三ノ宮優太さんが「金沢医科大学氷見市民病院の一員として、自己研鑽に努め職務に精励することを誓います。」と宣誓を行い、入職式を閉会した。引き続き、4月4日まで新入職員オリエンテーションが行われた。



働き方改革への取り組み

働き方改革により、平成31年4月1日に労働時間法制の見直しが行われました。

働く方々がそれぞれの事情に応じた多様な働き方を選択できる社会を実現する働き方改革を総合的に推進するため、長時間労働の是正、多様で柔軟な働き方、「ワーク・ライフ・バランス」の実現および雇用形態に関わらない公正な待遇の確保等の措置が講じられます。

具体的な内容としましては、①残業時間の上限規制、②「勤務間インターバル」制度の導入促進、③年5日間の年次有給休暇の取得(企業に義務づけ)、④月60時間超の残業の、割増賃金率引上げ、⑤労働時間の客観的な把握(企業に義務づけ)、⑥「フレックスタイム制」の拡充、⑦「高度プロフェッショナル制度」の創設、⑧産業医・産業保健機能の強化であります。

企業に義務付けられた項目につきましては、当院でも対応が必要であり、一例としまして、年5

日間の年次有給休暇の取得につきましては、時期を見て取得状況を集計し、集計結果を基に所属長に取得を促すこととします。

また、労働時間の客観的な把握につきましては、平成31年度予算でIDカードを用いた出勤管理を含めた就業管理システムを導入することとしております。

当院では、システムが導入されるまでの間も各職員の出退勤時刻を把握する必要があるため、出退勤時刻報告書を用いて把握することとし、4月1日から実施しております。

さらに、医師及び看護師等の医療関係職と事務職員等の役割分担を推進し、負担軽減及び勤務環境の改善に資する体制を確保することを目的に、当院では「診療業務役割分担推進委員会」を設置しました。

現在、残業時間の削減や有給休暇を取得しやすくするなどを含め検討を重ねており、職員が働きやすい職場を目指し、取り組んでいるところであります。

新入職員オリエンテーション

平成
31年度

新入職員 オリエンテーション

4月1日(月)

- ① 金沢医科大学氷見市民病院の概要及び病院職員としての心構えについて

4月2日(火)

- ① 病院設備と防災・防犯設備について
- ② 各部門紹介
- ③ 職業人としての健康管理
- ④ 個人情報保護について
- ⑤ 地域医療連携について

4月3日(水)

- ① 各部門紹介
- ② 看護部りんごステーションの紹介
- ③ 新入職員接遇研修
- ④ 職場における防火と防災について
(氷見市消防本部)

4月4日(木)

- ① 感染防止の基礎知識について
- ② 医療安全の基礎知識について
- ③ BLS研修



医療従事者 5名



写真左から(薬剤師、放射線技師2名、臨床工学技士、社会福祉士)

看護部 10名



3階東病棟 看護師
荒屋 吏沙さん



氷見高等学校の授業の時に、こちらの看護師さんが講義をしてくださり、わからないところ、出来ないことを丁寧に教えて下さいました。

病院見学でも職員の方々は明るく活気があり良い病院だと思いい職を希望しました。今はまだわからないことも多く、毎日勉強で大変ですが、優しい先輩に教えていただき恵まれた環境で嬉しく思います。

患者さんが安心して治療に専念できるよう療養環境を整え、また、患者さんの声に耳を傾け患者さんの思いに寄り添える看護師となるよう努力していきたいと思えます。

平成31年度

新任医師紹介

4月より、新しく13名の医師が着任いたしました。
 新体制として、市民の皆様へ、より良い医療を提
 供できるよう、いっそう努めてまいりますので、よ
 ろしくお願い申し上げます。



放射線科

准教授
水橋 義和
みずはし よしかず



一般・消化器外科

教授
木南 伸一
きなみ しんいち



整形外科

教授
横山 光輝
よこやま みつてる



総合診療科

助教
薄田 大輔
うすだ だいすけ



眼科

助教
藤田 信之
ふじた のぶゆき



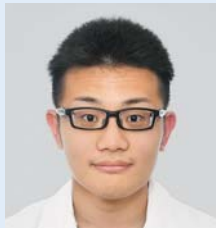
救急科

准教授
眞柴 智
ましば さとる



総合診療科

医員
高長 紘平
たかなが こうへい



整形外科

医員
瀧 康彦
たき やすひこ



皮膚科

医員
楠木 敦士
くすのき あつし



腎臓内科

助教
大串 勇気
おおくし ゆうき



臨床研修センター

研修医
三ノ宮 優太
さんの みや ゆうた



臨床研修センター

研修医
北島 宏矩
きたじま ひろのり



循環器内科

医員
黒木 健伍
くろき けんご

平成30年度 火災総合訓練・災害総合訓練

平成30年度の災害訓練は、平成31年3月18日(月)に火災総合訓練、3月19日(火)に災害総合訓練を実施しました。

火災総合訓練は、消防署職員から消火器の正しい使い方を学ぶ消火器訓練及び時間外の火災訓練を行いました。消火器訓練は、粉末消火器を使い実際の火を消すことにより、消火器のホースをどのように向ければ迅速に消火できるかを確認しました。火災訓練は、時間外の職員が少ない時間帯の5階西病棟での出火を想定し、初期消火、避難誘導、安全防護、応急救護、連絡網による呼集訓練を行い、各部署の出火時の対応について確認を行いました。

災害総合訓練は、1次訓練から3次訓練として3つの訓練を行っており、1次訓練は、院内15箇所に出火場所を想定し、各部署で初期消火の対応や消火器、補助散水栓の場所や取扱いを確認しました。2次訓練では、大規模地震に併せて5階東病棟から出火したとの想定で、実際に自衛消防隊の補助散水栓からの放水や氷見市消防本部と連携し、棚の下敷きになって逃げ遅れた職員1人、模擬患者1人との情報を共有することにより、消防隊に救助の依頼を行いました。氷見市消防署が平成30年度に導入したばかりのはしご

車で消防隊が救出を行い本番さながらの訓練となりました。3次訓練は、地震等により市内の負傷者が多数来院される事を想定したトリアージ訓練を行いました。正面玄関エントランスホールにトリアージエリアを設置し、ウォークインによる来院に加え、救急車で次々に来院する模擬患者を医師、看護師及び事務からなるトリアージチームがトリアージを行い、重傷度、緊急度別に次の救護所に搬送するまでの動きを確認しました。

3月25日(月)には、氷見市消防本部竹内貞明予防課長をお招きし、一連の災害訓練の講評を頂きました。竹内予防課長から、訓練時の検証として時系列を示しながら、良く出来ていたとの評価を頂きました。一方で、今後の課題として、院内の職員間の連携は良く出来ていたが、消防本部の指揮隊と当院の災害対策本部との連携をさらに強化し、当院の被災状況をスムーズに伝達できるようにする必要があると述べられました。

引き続き、竹内予防課長を講師として「防災のスイッチ」と題し災害対策講習会が開催されました。竹内課長は、平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)発生後、長官指示に基づき、富山県隊として翌日朝6時には宮城県名取市の箱塚グラウンドに到着したことや、捜索・救助の活動を通

して当時の被害状況が現地の写真と共に紹介され、大規模な自然災害の凄まじさが改めて認識させられました。あのような災害の前では救助隊員として無力さを痛感した経験をお話されました。自助(自分の身は自分で守る)、共助(地域や近隣の人が協力して防災活動を行う)、公助(防災機関の対応)のうち、自助と共助の連携が重要としながらも、当該地震の津波の際には、消防職員や消防団員をはじめ家族などの救助に戻ったことにより、被害に遭われ多くの方が亡くなられたことに触れ、東北地方で伝わる、『津波でんでん』という言葉から、津波が来たら、肉親にも構わず、各自でんではばらに一人で高台へ逃げる、自分の命は自分で守ることが、最も大事であると説かれました。

訓練や講習会を通じて職員一人ひとりが、基本の動きを身に付け、被害が拡大しないためにはどのように行動すればよいか、病院として自助がどのようになれるか考え、さらに安全安心の地域で頼りにされる病院となるよう取り組んでいきます。



平成30年度 臨床病理 検討会 (CPC)

平成31年2月22日(金)18時から、教育研修棟2階合同カンファレンス室において、平成30年度臨床病理検討会(CPC)が行われました。

臨床病理検討会は、病院で行われる複数の診療科の医師と病理医が合同で行う討論形式の症例検討会であり、英語で Clinical pathological conference と表されるため、しばしばCPCと略称されます。

当院の初期臨床研修医が、患者さんの主訴、既往歴、家族歴、現病歴、入院時現症、検査所見を説明し、画像検査などを提示した後、入院後の経過と治療経過を説明します。司会者は、出席した医師の中から専門分野に応じて指名し、問題点や鑑別診断について意見交換や議論を行った後、具体的な臨床診断の絞り込みが行われます。

最後に病理医が剖検または生検で判明した診断結果を解説し、最後に全員で症例の診断に至る過程の合理性、治療の妥当性、画像や検査所見の整合性や矛盾点などを議論して終わります。

臨床病理検討会(CPC)は、医療の質向上を図ることを目的とした勉強会です。

氷見ライオンズクラブ 車椅子贈呈

平成31年3月25日(月)2階応接室において、ライオンズクラブ国際協会334-D地区 地区年次大会記念事業(60周年)の一環として、氷見市ライオンズクラブから車椅子3台が寄付されました。当院からは、松本忠美最高経営責任者、梅博久病院長、上端雅則事務長が出席し、松本最高経営責任者が目録を受け取り、梅病院長から「医療への深いご理解のもとで車椅子のご寄付を賜りましたことに対して心より感謝の意を表します」と述べた後、感謝状を贈呈しました。



寄付された車椅子3台については、正面玄関入り口に配置しましたのでご利用ください。

鞍川倶楽部 「紅葉山計画」植樹会

平成31年3月19日(火)に、氷見市屋内健康広場において、氷見鞍川倶楽部による紅葉植樹会が実施され、市役所の南西側に位置する山の斜面に計

100本の苗木が植えられました。この「氷見鞍川倶楽部」とは、鞍川地区の地域振興や住民との親睦・連携を目的に、平成30年6月に地元経営者によって発足され、会長には、当院の松本忠美最高経営責任者が就任しました。

今回、振興事業の一環として、鞍川の山に紅葉の木を植え、将来、「紅葉の里」と称される美しい名所として、後世に残していこうという想いのもと、この紅葉山計画が実現しました。



その第1回目の植樹会に、当院から、松本忠美最高経営責任者、上端雅則事務部長が出席し、苗木の植え込み作業にも参加させていただきました。

紅葉の木は、錦秋のグラデーションが描かれるよう3種類が植えられ、今後30年にわたって、地域住民と連携しながら植樹を継続していく予定との事です。

将来、市内の桜の名所である朝日山公園に並ぶ、紅葉の名所として、氷見の秋を彩る美しい紅葉を観に、沢山の人が訪れてくれる事を願って、当院も鞍川地区の一員として協力していきます。

いと思います。

通所リハビリテーション受賞

通所リハビリテーションでは、個別リハビリや入浴などのサービス空いた時間に利用者さんと一緒に季節に応じた塗り絵や作業課題を行っております。今回、利用者さん全員が協力してお花紙や折り紙を使用してぶどう棚を作製しました。「秋の美り」と題したその作品が、リハビリ雑誌の「月刊デイ」2019年4月号にて見事2度目の入賞を果たすことができました。作品の完成までには多くの時間を要しましたが、その分完成した際には、利用者さんとスタッフは、喜びと共に大きな達成感を得ることができました。

今後ご利用者さんの意欲向上につながるような作品づくりに取り組み、今度は大賞を頂けるよう、頑張っていきたいと思えます。



病院からのお知らせ掲示板

● 金沢医科大学氷見市民病院 2019年度「健康づくり教室」-受講生募集-

当院では、市民の皆さんを対象に、「さまざまな病気」について、予防法や診断・治療法など、専門医師が解りやすく講義を行い、「予防医学・健康回復・増進」に役立てていただくことを目的に、「健康づくり教室」を開講します。
 病気や医療に関する疑問など、直接医師とお話する機会として、お気軽にご参加ください。

○開催要領

- *期間 2019年5月～11月（8月除く）
- *時間 14:00～15:30（受付開始13:30～）
- *場所 金沢医科大学氷見市民病院 6階多目的ホール
- *募集受講生 100名程度



〈受講料〉
無料

日程	演題	講師
5月18日(土)	—開講式— 誤嚥性肺炎の予防について	病院長 呼吸器内科 名誉教授 梅 博久
6月15日(土)	生活習慣病 ～自分の体は自分で守る～	総合診療科 助教 薄田 大輔
7月20日(土)	手・ゆびの変形、痛み あきらめていませんか？	整形外科 臨床教授 横山 光輝
9月21日(土)	がんを知る、がんと付き合う	一般・消化器外科 臨床教授 木南 伸一
10月19日(土)	加齢と眼の病気～緑内障って、どんな病気？～	眼科 助教 藤田 信之
11月16日(土)	インフルエンザの流行に向けて —閉講式—	救急科 臨床准教授 眞柴 智

※講師、演題等は変更となる場合があります。

○受講申し込み方法（下記の①～②のいずれかでお申し込みいただけます。）

- ①下記の申込書をご記入の上、郵送またはFAXして下さい。
- ②下記の間合せ先まで、お電話にてお申し込み下さい。

【申込書送付先・お問合せ先】

金沢医科大学氷見市民病院 総務課 住所：〒935-8531 富山県氷見市鞍川1130番地
 電話：0766-74-1900（内線：2023） FAX：0766-74-1901

● 高齢者の肺炎球菌感染症 予防接種のお知らせ

肺炎の原因はいろいろな菌がありますが、一番多いのは肺炎球菌であり、全体の3分の1を占めるといわれています。
 予防接種を受けて、肺炎を予防しましょう。

- ① 対象者 次の①②のいずれかに該当する方
2019年度に対象となる方

101歳以上の方	100歳	95歳	90歳	85歳	80歳	75歳	70歳	65歳
大正8年4月1日以前の生まれの方	大正8年4月2日生～大正9年4月1日生の方	大正13年4月2日生～大正14年4月1日生の方	昭和4年4月2日生～昭和5年4月1日生の方	昭和9年4月2日生～昭和10年4月1日生の方	昭和14年4月2日生～昭和15年4月1日生の方	昭和19年4月2日生～昭和20年4月1日生の方	昭和24年4月2日生～昭和25年4月1日生の方	昭和29年4月2日生～昭和30年4月1日生の方

② 60歳以上65歳未満で心臓、じん臓もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害がある方（身体障害者手帳1級相当）

■ 期間 2019年5月1日～2020年3月31日

■ 注意事項
過去に肺炎球菌ワクチンを接種されたことがある方は定期接種の対象にはなりません。

■ その他 案内はがきを必ず持参してください。

金沢医科大学氷見市民病院 医事課（内線1022）

● 6月1日休診について

令和元年6月1日(土)は金沢医科大学開学記念日のため、外来診療を休診とさせていただきます。なお、救急患者さんについては、救急外来にて受診ください。

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関を受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報は厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

氷見のご当地ゆるスポーツ 「ハンぎょボール」

「ハンぎょボール」は、氷見市がまちおこしの一環として考案した「ハンドボール」と出世の魚「ブリ」を融合させたゆるスポーツです。(ゆるスポーツとは、一般社団法人世界ゆるスポーツ協会が認めたスポーツです。)



HIMI × BSM +での体験会

ルールは、ハンド

ボールと基本的には同じですが、プレーヤーは、ブリをモチーフにしためいぐるみを脇に抱えてプレーし、必ずブリを抱えた手でボールを投げます。ゴールを決めると、脇に抱えたブリがコズクラ→フクラギ→ガンド→ブリと出世します。

ゴールを決めれば、チームみんなで「出世！」と声をかけ合い、反則すると「だらぶつ」、「しよわしない」など氷見の方言が随所に出てきます。子供にはチームワークの大切さを体感し、地元の方言も豊富に盛り込まれており、ふるさと教育の場にもなると思います。

大人から子供まで老若男女問わず夢中になれるスポーツです。

【お問い合わせ】

氷見市教育委員会事務局スポーツ振興課 TEL.0766-74-8446

表紙について

平成31年4月17日に氷見市で行われたまるまげ祭の様子です。芸妓さんが年に一度の休みを利用して、人妻の象徴とされていた「丸まげ」を結び、地区内の千手寺に幸せな結婚を願ってお参りしたことが由来とされています。当院職員3名を含む約60名の独身女性が参加しました。

編集後記

今年は例年よりも早く桜の開花を迎え、ここ1か月程の間に木々がすっかり姿を変えました。本号が皆様のお手元に届くころには、爽やかな新緑の季節を迎えているのではと思います。

さて、平成31年は2019年4月30日に幕を閉じ、2019年5月1日に新天皇が即位され「令和元年」が始まりました。令和最初の編集後記を担当することができ、嬉しく思います。まだ令和は始まったばかりですが、世の中が平和で、毎日楽しく過ごせる時代であればいいなと思います。

今後も広報誌「かけはし」を通して、皆様に様々な情報をお届けできるよう頑張りますので、よろしくご祈願致します。



かけはし春号編集委員 中央放射線部 前畑 礼実

■広報誌「かけはし 氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。